

⑫ 公開特許公報(A) 平3-95004

⑤ Int. Cl.³B 65 G 1/10
B 07 C 3/08

識別記号

庁内整理番号

2105-3F
7111-3F

⑬ 公開 平成3年(1991)4月19日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全4頁)

⑭ 発明の名称 床フレーム固定装置

⑯ 特 願 平1-227731

⑰ 出 願 平1(1989)9月1日

⑱ 発 明 者	藤 崎	邦 夫	大阪府門真市大字門真1006番地	松下電器産業株式会社内
⑱ 発 明 者	門 山	茂 則	大阪府門真市大字門真1006番地	松下電器産業株式会社内
⑱ 発 明 者	碓 井	秀 雄	大阪府門真市大字門真1006番地	松下電器産業株式会社内
⑱ 発 明 者	磯 田	健 一	大阪府門真市大字門真1006番地	松下電器産業株式会社内
⑱ 発 明 者	酒 井	清 喜	東京都港区西新橋1丁目16番2号	日本郵便通送株式会社内
⑲ 出 願 人	松下電器産業株式会社		大阪府門真市大字門真1006番地	
⑲ 出 願 人	日本郵便通送株式会社		東京都港区西新橋1丁目16番2号	
⑳ 代 理 人	弁理士 栗野 重孝		外1名	

明 細 書

1、発明の名称

床フレーム固定装置

2、特許請求の範囲

ロールボックスの底板となるサイドフレームと、サイドフレームに固定されたボスと、荷物を積載し、軸を中心に回転可能な床フレームと、互いに近接してボスをクランプし床フレームをサイドフレームへ固定する相対向して設けられた一対のツメと、床フレームに設けられ、前記ツメをガイドするピンと、一対のツメが互いに近接可能なよう付熱するパネと、ロールボックス折りたたみ時、床フレーム持上げの支点となるピン部を備えたことを特徴とする床フレーム固定装置。

3、発明の詳細な説明

産業上の利用分野

本発明は、郵便物等の荷物を収納し配送することを目的としたロールボックスに係り、特に床フレームの固定装置に関するものである。

従来の技術

近年、床フレーム固定装置は、ボルト固定タイプ化されている。以下、図面を参照しながら、上述した従来の床フレーム固定装置の一例について説明する。

第4図は、従来の床フレーム固定装置を示すものである。1はサイドフレームで、ロールボックスの床板となる。2は床フレームで、荷物を積載する。3は蝶番で、ロールボックス折りたたみ時に、床フレームの支点となる。4はボルトで、床フレームをサイドフレームへ固定する。

以上のように構成された床フレーム固定装置について以下その動作について説明する。まず、ボルト4を六角レンチにて取り外す。次に床フレーム2を蝶番3を支点とし持ち上げ、ロールボックスを折りたたむ。又、広げる時は逆の作業となる。

発明が解決しようとする課題

しかしながら上記のような構成では、床フレームをサイドフレームに固定する時、六角ボルト、六角レンチ等の道具を必要とし、作業時間が多く

かかるという問題点を有していた。

本発明は上記問題に鑑み、道具を使用せず、ワンタッチで、床フレームをサイドフレームへ固定、解除出来る、床フレーム固定装置を提供するものである。

課題を解決するための手段

上記問題点を解決するために、床フレーム固定装置は、ロールボックスの床板となるサイドフレームと、サイドフレームに固定されたボスと、荷物を積載する床フレームと、ボスをクランプし床フレームをサイドフレームへ固定するツメと、ツメをガイドするピンと、ツメをボスへ引き寄せるパネと、ロールボックス折りたたみ時、床フレーム持ち上げの支点となるピン部を備えたものである。

作 用

本発明は上記した構成によって、ロールボックスを折りたたむ時、又、広げる時に道具を使用せずワンタッチで、床フレームをサイドフレームへ固定、解除する。

固定装置について、以下第1図を用いてその動作を説明する。まず第1図は、床フレーム13をサイドフレーム11へ固定するツメ14の動作を示すものであって、第1図aは固定前を示すものである。ツメ14を下へ押すことにより、ピン15よりツメ14が解除され、パネ16の力によりツメ14の先端がボス12の溝へくい込み第1図bの状態となり床フレーム13がサイドフレーム11へ固定される。

発明の効果

以上のように本発明によれば、道具を使用せずワンタッチで床フレームをサイドフレームに固定、解除出来る作業時間も大幅に短縮出来る。

4、図面の簡単な説明

第1図a, bは本発明の一実施例における床フレーム固定装置の側断面図、第1図cは同平面図、第2図はロールパレットの外観図、第3図はロールパレットの平面図、第4図は従来の床フレーム固定装置の斜視図である。

11……サイドフレーム、12……ボス、13

実 施 例

以下本発明の一実施例の床フレーム固定装置について図面を参照しながら説明する。

第1図、第3図は、本発明の第1の実施例における床フレーム固定装置の構造を示すものである。図において11a, 11bはサイドフレームで、2つ設けられロールボックスの床板となり、各々、車輪11c, 11d及び車輪11e, 11b一体となっている。12はボスでサイドフレーム11に溶接されている。13a, 13bは床フレームで、各々、垂直方向に他の床フレーム13c, 13d及び13e, 13bを設けており、ピン13g, 13hを中心に回転可能であり、荷物を積載する。14はツメでサイドフレーム11を床フレーム13へ固定する。15はピンでツメ14をガイドする。16はパネで、ツメ14をボス2へ引き寄せている。尚、第3図はロールボックス床面を上面より見たものであり、Aは床フレームワンタッチ固定装置である。

以上のように構成された床フレームワンタッチ

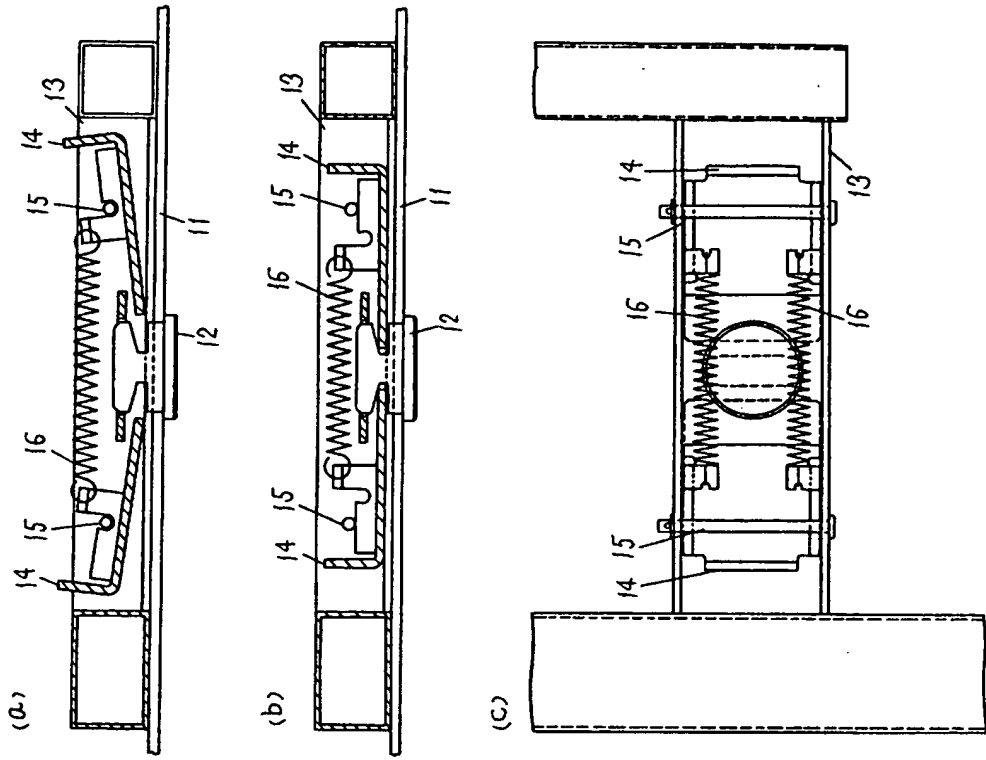
……床フレーム、14……ツメ、15……ピン、16……パネ。

代理人の氏名 弁理士 栗野重孝 ほか1名

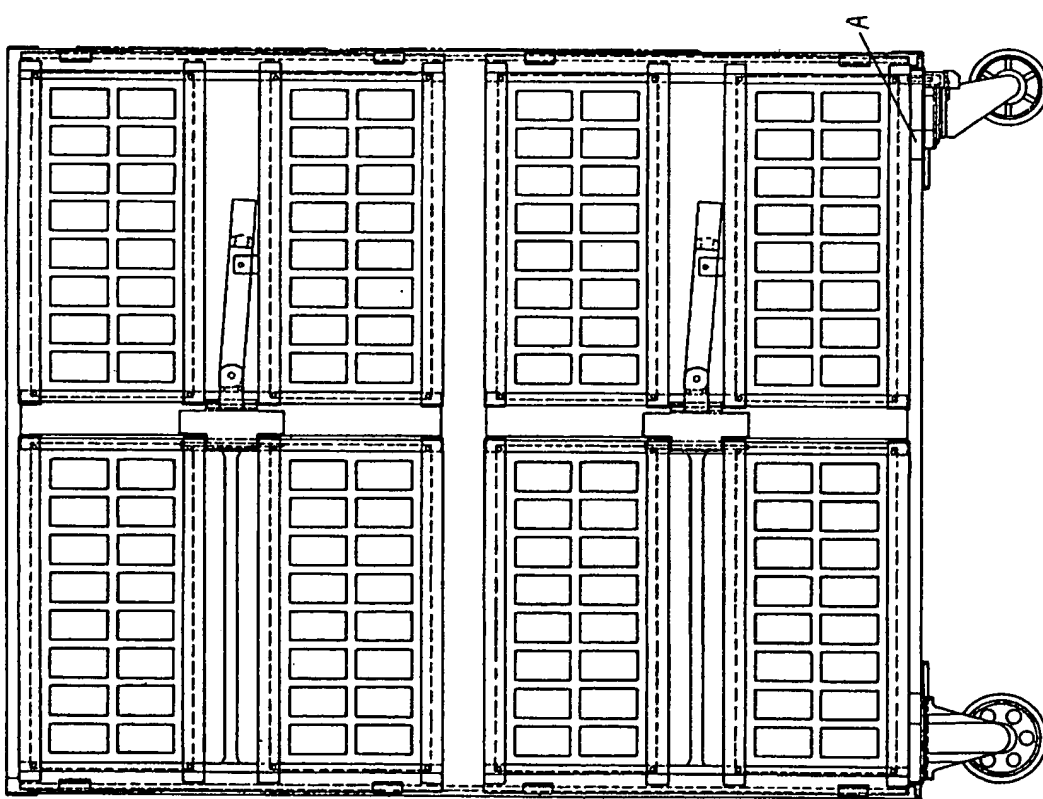
Best Available Copy

- 11---扉フレーム
12---ボス
13---扉フレーム
14---ツマ
15---ピン
16---バネ

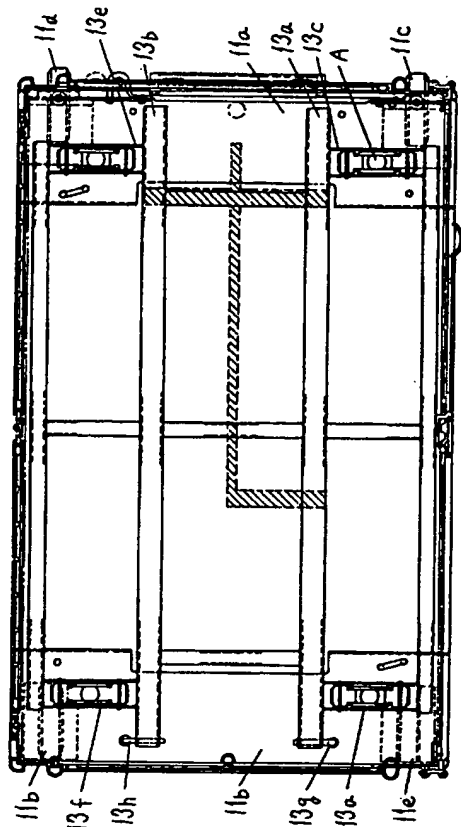
第 1 図



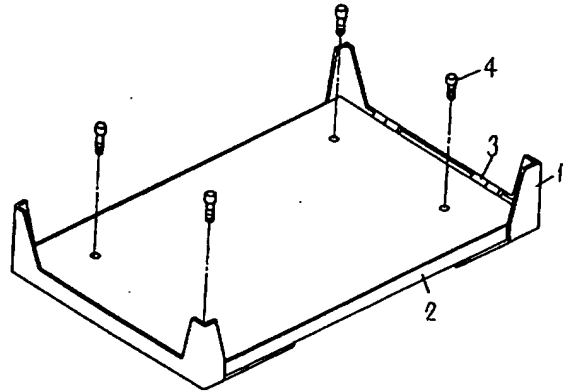
第 2 図



第 3 図



第 4 図



Not Available Copy